

鹿児島大学学生海外研修支援事業の報告（助産学コース大学院生）：韓国での産後ケアセンター、母乳育児支援センター訪問とプレゼンテーション体験

著者	中尾 優子, 八代 利香, 津留見 美里, 吉本 明子, 吉留 厚子
雑誌名	鹿児島大学医学部保健学科紀要=Bulletin of the School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University
巻	25
号	1
ページ	19-24
別言語のタイトル	"Report on the Kagoshima University Student Overseas Trainig Support Project (Course of Midwifery, Graduate School of health Sciences): Master Course Student's Activities during Vivits to Postpartum care center and breastfeeding support center in Korea"
URL	http://hdl.handle.net/10232/23895

鹿児島大学学生海外研修支援事業の報告（助産学コース大学院生）

— 韓国での産後ケアセンター，母乳育児支援センター訪問とプレゼンテーション体験 —

中尾 優子¹⁾，八代 利香¹⁾，津留見 美里²⁾，吉本 明子²⁾，吉留 厚子¹⁾

要旨 鹿児島大学の学生海外研修支援事業として，助産学コースの大学院生2名とともに，産後ケアセンターと母乳育児支援センターを訪問し，韓国の母子支援の一環を研修することができた。また，日本の助産師教育について，大学院生がプレゼンテーションする機会を得，大学院生間の交流ができたので報告する。

キーワード： 産後ケア，母乳育児支援，韓国，助産教育

はじめに

鹿児島大学では，大学憲章に基づき，自主自立と進取の精神を併せ持ち，かつ社会の発展に貢献し，国際社会で活躍できる人材の育成を図るため，本学で実施する学生の海外研修を支援する目的で「鹿児島大学学生海外研修支援事業」が実施されている。看護学専攻では，平成23年度よりこの支援事業で多くの学部学生が学びを得てきた¹⁾。平成26年度支援事業では，6名の学部学生に加え，助産学コース大学院生2名が韓国への海外研修に参加した。他，鹿児島大学病院看護部職員4名，教員2名も同行した。

本大学院助産学コースの「助産学特論」の講義科目では，国内外の助産の歴史を学び，今後の助産師としての在り方を考察できる能力を養うことを一つの目的としている。隣国である韓国で学ぶことで，国内の母子保健の課題のみではなく，グローバルな視点から母子保健の課題を洞察する力を強化することを目標に，この研修に大学院生が参加した。

今回，2014年8月30日から9月4日までの6日間に，学术交流協定校である中央大学校赤十字看護大学（CAU），中央大学病院，保健センター，認知症センター，メンタルヘルスセンター，スキンリハビリテーションセ

ンターの見学に加え，韓国の大学院生が受講している講義の聴講とプレゼンテーション，産後ケアセンター，母乳育児支援センターの訪問活動を行った。今回は，その中の母子保健関連活動について報告する。

1. 訪問の準備

今回の研修では，韓国の大学院の講義を聴講する機会と日本の助産師教育について，プレゼンテーション実施の承諾を事前に得ることができた。プレゼンテーション内容について検討し，日本の助産師教育の傾向として，教育期間と単位数の変化，助産師教育施設数と国家試験合格者数の変化，助産師になるためのコース²⁾，鹿児島大学の助産学コースの特徴として，大学院生・教員の紹介，カリキュラム内容，学生生活について，研修や助産師会イベントへの参加を盛り込み，英語でのプレゼンテーションの準備を行った。また，韓国の出産文化についても論文による学習を行った³⁾。

2. 研修の実際

今回の研修は，表1に示す内容で実施された。今回の大学院生の学びとして，研修最終日に参加した大学院生の講義参加及びプレゼンテーション，韓国の産後ケアセ

¹⁾鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻

²⁾鹿児島大学大学院助産学コース

連絡先：中尾 優子

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

TEL/FAX : 099-275-6350

E-mail: ynakao@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

表1 2014 CAU-KU* Student Exchange Program

Date	Time	Events
Aug. 30	~ 17:55	Arrive at the Incheon Int'l airport
	~ 20:30	Tour Bus
Aug. 31	9:00 ~ 20:00	Seoul City Tour Join with CAU students
Sep. 1	9:30 ~ 11:00	• Greetings
		• CAU Orientation
		• Orientation & Introduce to Red Cross College of Nursing, CAU
	11:00 ~ 11:30	• Red Cross College of Nursing tour
	11:30 ~ 12:30	Welcome Lunch
	12:30 ~ 13:00	Move to PHC
	13:00 ~ 14:00	• Dongjak-gu Public Health Center (http://healthcare.dongjak.go.kr/healthcareEng/main/main.do)
	14:00 ~ 16:00	• Dongjak-gu Center for Dementia (https://dongjak.seouldementia.or.kr) • Dongjakgu Community Mental Health Center (http://www.dongjakmind.or.kr)
	16:00 ~ 16:30	Back to Guest House
	16:30 ~ 18:00	Free time
18:00 ~ 19:00	Dinner at Korean Restaurant	
Sep. 2	10:30 ~ 12:00	CAU Hospital Tour
	12:00 ~ 13:00	Lunch at CAU hospital cafeteria
	13:00 ~ 15:00	Nurses and Students: Practice with Nursing Students
		Professor: Meeting with CAU faculty
	15:00 ~ 17:30	Move to Seocho-gu • Visit OJO Skin Rehabilitation Center
18:00 ~	Dinner at Korean Restaurant	
Sep. 3	9:00 ~ 12:00	Graduate Students: Attend Graduate Class “Policy of Health & Welfare”
	11:00 ~ 13:00	Undergraduate Students: Attend Fundamental Nursing Practice
	9:00 ~ 12:00	Nurses: Free time
	10:00 ~ 12:00	Nurses: Meeting with Department of Nursing at CAU Hospital
	13:00 ~ 18:00	Move to Gyunggi-do Pankyo & Bundang city by tour bus
		• Visit Dear Reina Postpartum Maternity Care Center (http://dearreina.co.kr) • Visit Moyusarang Lactation Consultant Clinic (http://www.moyu.co.kr)
18:00 ~ 19:30	Farewell Dinner at University Club	
Sep. 4	11:00 ~	Depart to Incheon Airport

*CAU(Chung Ang University) - KU(Kagoshima University)

ンター、母乳育児支援クリニックについて報告する。

1) 大学院生講義の聴講とプレゼンテーション

韓国の大学及び大学院のスタートは9月開始であるため、オリエンテーションを含めた今学期、初回のクラスの一つに参加した。受講した講義内容は、「Policy of Health & Welfare」でほとんどが英語で行われた。韓国

の学生は、質問も多く、積極的な講義参加であった。講義終了後、本大学院生が交代でパワーポイントによるプレゼンテーションを英語で実施した。発表後、日本の病院での助産師の数や助産師教育課程の種類やその違いについて質問があり、韓国の教育との違いや職種について、相互に学ぶことが出来た。



写真1 中央大学校赤十字看護大学にて



写真2 大学院生によるプレゼンテーション



写真3 Dear Reina Postpartum Maternity Care Center の外観

2) 母子関連施設の訪問

韓国は、合計特殊出生率が6.0ほどであった1960年には人口抑制政策を進めていたが、その後、出生率の低下が進み、2000年頃から出産抑制から出産奨励へと変わってきたと言われている⁴⁾。2008年は、合計特殊出生率1.19で日本と同じ急速な少子高齢化の波を受けており⁵⁾、母子保健支援の施設が多く立ち上げられてきている。その中で、産後ケアセンター、母乳育児支援クリニックを訪問することができた。

(1) 産後ケアセンター

Dear Reina Postpartum Care Center⁶⁾は、一般室14室、スイート3室、ロイヤルスイート1室の計18室の客室数を保持していた。母児同室でもあるが、新生児室は独立して存在しており、母親が新生児のケアなどを看護師に任せることができ、母親の産後の回復改善のため、くつろげる体制に力が入られていた。新生児室は24時間カメラで監視されており、看護師は24時間、3交代で十分な数が常勤しており、安全管理が充分に行われていた。また、韓国では、母子保健法改正法律が2006年6月に施行され、産後ケア施設は申告業に切り替えられた⁵⁾。新生児の感染対策も強化されており、この産後ケアセンターでは、入室時に全身の消毒が行える装置が設置され、施

設内への立ち入り制限、定期的な職員の健康管理など厳重な感染管理が行われていた。韓国の産後ケア施設について坂梨は、「主なケア内容は、産後の生活や家族計画・避妊法等の指導、乳房マッサージ・母乳育児への援助、身体的回復へのケア、沐浴指導・ベビーマッサージなどの新生児ケア、ほか、記念写真撮影、エステなどが行なわれている」と述べている⁵⁾が、このセンターも同様なケアが実施されていた。小児科医師による新生児への診察も定期的に行われていた。

(2) 母乳育児支援クリニック

Moyusarang (モユサラン) Lactation Consultant Clinic⁷⁾は、テナントがたくさん入っているビルの一角にあり、乳房管理と母乳育児支援のクリニックである。韓国語のモユは母乳、サランは愛という意味と言われていた。経営をされている院長は、看護師の資格を持ち、アメリカ、ヨーロッパ、日本で母乳育児を学び、国際ラクテーションコンサルタント資格を取得されていた。2005年の設立後、多くの母子支援を行い、訪問も実施されていた。この施設の主な利用者は、母乳育児に自信感がなく不安な方、自分にあった母乳育児法を探そうとしている方、母乳育児に失敗した経験がある方、死産流産の経験のある方、無理に断乳をした経験のある方、肉体労働やスト



写真4 Moyusarang Lactation Consultant Clinicにて
(後方は歓迎の垂れ幕)

レスが多い職業についている方、混合授乳や搾乳をしている方などと説明された。モユサララクテーションコンサルタントクリニックのパンフレットには、「子どもを産んだら予想とちがって授乳が難しく、時には絶望を感じてしまうときもあります。自信をもって強い親になってください」「妊娠中から赤ちゃんがおっぱいをやるまで、一緒にがんばりましょう」といった言葉が書かれており、メンタル面でのフォローも十分に配慮されていた。妊娠38週から断乳までを対象に母乳育児支援を行っており、地域に密着した支援が行われていた。

3. 学生の振り返り

研修終了後、学生は報告書の作成と学生海外研修支援事業の報告会で学部生とともにパワーポイントによる発表を行った。大学院生の発表内容は、母子支援事業を主な内容とした。

(1) 報告書からの学生の学び

報告書の内容から、学生は、中央大学病院の産科病棟、産後ケア施設、ラクテーション施設の見学が、助産学を専攻する者として非常に興味深く、特に、日本で未訪問の施設を見学することができたことを母子保健のさらなる興味に繋がったと記していた。また、学生は「日本との共通点や相違点を知りながら、文化や国民性の違いを実感する場面、特に産後ケア施設は、産後早期の母親の支援の観点が日本と大きく異なっていたため、母親の休息を最優先するとどのようなケアに需要があるのか学ぶことができた。母乳支援施設では、ひとつの手法にこだわらず、いかにして母親のニーズに応えるかという熱意ある姿勢に感銘を受けた。」と述べており、母子保健として世界共通に支援される内容は何であるのか、また、

異なる文化・生活背景では、それぞれの文化で大切にされるべき支援内容の違いや重要性について理解していた。さらに、学生は、中央大学の大学院の講義聴講と『日本の助産教育と鹿児島大学大学院助産学コースについて』のプレゼンテーションで、「準備段階から、英語力の必要性、プレゼンテーションの難しさを実感した。その反面、終了後は達成感があり、未熟ながらも意思疎通が図れた時の嬉しさが自信につながった。改めて日本の現状や助産教育の基本を振り返る機会となり、大変に貴重な経験をすることができた。」と述べており、英語での発表という大きなプレッシャーに挑んだ満足感を得ていた。また、「今後、学ぶことに対してもっと貪欲に、相手に伝えることを意識しながら、大学院での生活を過ごしていきたい。」と述べ、今後の学習のモチベーションアップにつながっていた。

(2) 報告会からの学生の学び

報告会は、学部生と発表内容を調整し、協同で実施した。報告書作成後、韓国の周産期医療や出産文化など自己学習し、産後ケアセンターの背景についてより詳しく説明することができていた。また、韓国の助産師・看護師教育課程を調べ^{8) 9)}、専門職者の数の違いにより生じているそれぞれの国が抱える課題や上級実践看護師(APN)の存在についても理解していた。研修に参加した感想として、「最も痛感したのは英語力の必要性であった。韓国の学生は当然のように英語が話せ、講義も英語で行っていた。また、日本や鹿児島島の現状についての知識の重要さを感じた。海外に出て、改めて日本について知り、良さに気付く機会ともなった。韓国の方は本当に学習熱心で、看護師の方も日本とは違い独立して開業するなど、自立していることに驚いた。」と述べており、他文化に触れることで、自らを客観視する幅が広がっていた。

4. 教員の振り返り

本大学では平成26年度より大学院に助産学コースが立ち上がり、試行錯誤しながらの教育展開を行っている。学生は、研修を通し、コミュニケーションツールとしての外国語の学習の大切さ、自国の文化と他文化をよく知ることの重要性、日本と世界の母子保健の課題抽出と実践の必要性を感じており、助産学特論の目的の一つを達成することができた。また、大学憲章に基づいたグローバルな視点を早期に根付かせるためにも今回の韓国研修は、大きな成果をあげることができたと考えられる。今後は、異文化理解についての学習はもちろん、学内でも外国語でのディスカッションや講義聴講など外国語に慣れる機会を多く準備する努力をしていかなければならないと考

えている。

謝辞

施設訪問や大学講義の聴講やプレゼンテーションという貴重な機会をくださった中央大学校赤十字看護大学の先生方，スタッフの皆様，訪問施設の方々に深く感謝いたします。

文献

- 1) 八代利香，松成裕子，李笑雨：鹿児島大学学生海外研修支援事業の報告 - 韓国の Chung-Ang University および保健診療所の訪問活動 - ，鹿児島大学医学部保健学科紀要 2012 ; 22 : 1-6
- 2) <http://www.nurse.or.jp/jna/english/midwifery/pdf/mij2014.pdf>
日本看護協会ホームページ August 21, 2014)
- 3) 吉留厚子，大神純子，八代利香：わが国における分娩後の日常生活行動の拡大について - 文献および日本と韓国との比較を通して - 熊本県母性衛生学会雑誌 2006 ; 9 : 61 68
- 4) 金明中，張芝延：【子育て支援策をめぐる諸外国の現状】韓国における少子化の現状とその対策，海外社会保障研究 2007 ; 160 : 111-129
- 5) 坂梨薫，勝川由美，臼井雅美他：韓国の産後ケア施設の現状と課題 - わが国への産後ケア施設導入に向けての考察 - ，母性衛生 2010 ; 51(2) : 482-489
- 6) <http://dearreina.co.kr>. Dear Reina Postpartum Maternity Care Center ホームページ January 10, 2015
- 7) <http://www.moyu.co.kr>. Moyusarang Lactation Consultant ホームページ January 10, 2015
- 8) 橋本麻由里，泊祐子，山内栄子，他：韓国における上級実践看護師（APN）制度と教育，岐阜県立看護大学紀要 2009 ; 10(1) : 51-58
- 9) 田村知子：韓国助産師の現状と動向，WHS 2010 ; 9 : 116 122

**Report on the Kagoshima University Student Overseas Training Support
Project (Course of Midwifery, Graduate school of health Sciences)
- Master Course Student's Activities during Visits to Postpartum care center and
breastfeeding support center in Korea -**

Yuko Nakao¹⁾, Rika Yatsushiro¹⁾, Misato Tsurumi²⁾,
Akiko Yoshimoto²⁾, Atsuko Yoshidome¹⁾

1) School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University

2) Course of Midwifery, Graduate school of health Sciences, Kagoshima University

Address correspondence to: Yuko Nakao
8-35-1, Kagoshima City, 890-8544, Japan
TEL/FAX : 099-275-6350
E-mail: ynakao@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

Abstract

This is the report for the following things. As part of the Kagoshima University student overseas support project, two graduate students (course of midwifery) participated in visits to the Dear Reina Postpartum Care Center and Moyusarang Lactation Consultant Clinic in Korea. In addition, graduate students was able to get the opportunity to presentation about midwifery education in Japan, were interact with Korea graduate students.

Key words: postnatal care, breastfeeding support, Korea, midwifery education